

# 幼稚園教諭・保育士養成課程大学における学生のダンス教材への捉えに関する一考察

## — 発達段階に応じたダンス教材作成に着目して —

高田 康史・湯浅 理枝・合原 晶子

本研究では、幼稚園教諭・保育士養成課程大学に所属する学生が作成するダンス教材に着目し研究を行った。学生が授業内で作成した「発達段階に応じたダンス教材」に着目しこれを分析検討することで、身体表現領域の授業改善のための一助となる基礎資料を得ることを本研究の目的としている。

本研究の結果を以下に簡潔に示す。①幼児向けダンス教材のBPMは110～130程度が妥当であると考えられる。学生は幼児にとってのテンポ感覚に乏しい。②学生が作成するダンス教材は、振付の難度が高くなりがちである上、フレーズ数を多く詰め込みがちである。幼児自身が自動化に時間を要するであろう動きは、振付全体の10%未満が望ましいと考えられる。③学生は、歌詞を捉えそこにインスピレーションを受けて動きを創ることがあり、これは幼児にも効果的であると示唆される。

キーワード：幼稚園教諭・保育士養成課程、発達段階、ダンス教材、身体表現、幼児向け

### 1. 緒言

幼児の身体表現・リズムダンス・ダンスに関する先行研究及び保育士養成におけるダンスに関する先行研究の概観について以下に示す。

ダンス教材の開発に関して川端(2016)は<sup>1)</sup>、幼児向けの教材として「ダンスとてあそび」の開発・映像化を行い学校現場に配布したことを報告している。松岡(2017)は<sup>2)</sup>、エアロビックダンスのステップを元に幼児向けのリズムダンスづくりを行っている。高木・平下(2016)は<sup>3)</sup>、幼児用リズムダンスを作成し、ダンス中の歩数にて運動強度を算出するとともに、振付の中で模倣が難しい動きなどを明らかにしている。

幼児におけるリズムダンス及びダンスの体得・習得に関して、亀山(2008)は<sup>4)</sup>、リズムダンスには教材として「こころ・からだほぐ

し」、「リズムを感じて踊る楽しさ」、「個人特有の表現方法を引き出す」などの6つの特性を有すると述べ、幼児が長期的にダンスを習得する過程(運動会の発表)に「①導入期②練習期③葛藤期④変化期⑤発表期」の5つの段階があると述べる。一方、田村(2016)は<sup>5)</sup>幼児が短期的にダンスを習得する過程として、「①関心期②練習期③葛藤期④倦怠期⑤転換期(⑥仕上げ期)」を示している。長野・椋(2010)は<sup>6)</sup>、幼児がダンス教材を体得するにあたり、より伸びる条件として、月齢の高さや女児であること教諭の話への集中度が高いことであると報告している。

身体表現における外部講師の役割について増田・松岡(2017)は<sup>7)</sup>、外部講師は保育士と子ども両者に有益であり、子どもに自由な表現を与えると述べている。



しかしながら、上記の研究はいずれも教材自体の開発、教材の特徴、教材に対する幼児の習得・体得過程などに着目している研究であり、幼稚園教諭・保育士養成の学生にスポットを当てたものではない。保育士養成におけるダンスに関する先行研究については、小笠原（2015）が存在する<sup>6)</sup>。小笠原（2015）では、既成の動きに加えて創作要素をとりいれる実践を保育士養成過程の授業内で実践し、この“既成+創作的要素”という創作法に関する成果を報告している。

そこで本研究では、上記先行研究より残された課題として、幼稚園教諭・保育士養成課程の学生が作成するダンス教材に着目し研究を行うこととした。上記の構想に至った背景の一つに身体表現領域に関する授業の充実が挙げられる。増田・松岡（2017）は<sup>7)</sup>、「保育者養成校での『身体表現』の授業内容に課題がある」と指摘している。将来、幼稚園教諭・保育士となる学生が指導に自信を持って取り組むためにも身体表現領域の授業科目の改善が必要である。上述の小笠原（2015）の実践は<sup>8)</sup>学生に対する意識調査において好影響を示している点で有益あるが、学生が作成したダンス教材自体への分析や評価は行っていない。そこで本研究は、学生が授業内で作成した「発達段階に応じたダンス教材」に着目しこれを分析検討することとした。学生自身のダンス教材の捉えや発達段階の捉えなどを把握することで、一般的な幼稚園教諭・保育士養成過程における学生の現状を理解することにつながり、これが身体表現領域の授業改善のための一助となると考え、この基礎資料を得ることを本研究の目的としている。また、比較材料として、一般的に世間に広く知られていると考えられる幼児向けダンス教材<sup>注1</sup>を取り上げることとする。

## 2. 方法

### 1) 対象者の属性について

本調査の対象者は、H大学の幼稚園教諭・保育士養成課程に所属する大学3年生39名と4年生46名である。

調査対象の実習経験の有無について、3年生はこれまでに2年生の前期に幼稚園実習、後期に施設への保育実習、3年生前期に保育所への保育実習、後期に幼稚園実習をそれぞれ10日間経験している。4年生は上記の実習に加え4年生の前期に保育所もしくは施設のどちらかを選択して保育実習を10日間行っている。今後取得見込みの免許や資格については、3年生は幼稚園教諭一種免許状と保育士資格、4年生においては上記の免許や資格と併せて小学校教諭一種免許状の取得を目指している学生が4名在籍している。

### 2) 学生が作成した発達段階に応じたダンス教材について

学生が作成した発達段階に応じたダンス教材については以下のとおりである。3年生については「幼稚園教育実習Ⅰ」において幼稚園教育実習の事前指導の中で、グループごとに発達段階に合わせたダンスを創るという課題で取り組んだものである。4年生については「保育実習演習」において、これまでの保育実習を振り返り、さらに実戦で役立つ技術を身につけるために発達段階に合わせたダンスを創るという課題に取り組んだものである。これら学生が作成した発達段階に応じたダンス教材については、これ以下「学生教材」と称する。

なお、学生教材はいずれも楽曲は統一されているものの、チームによって曲のBPMを変更しても良いこととした。

### 3) 一般的なダンス教材と学生作成ダンス教材についての比較検討

#### (1) 一般的なダンス教材について



一般的なダンス教材については、動画投稿サイト you tube より 9 件の動画を選定した (表 1)。選定の基準については、大学教員 (教育歴 8 年、ダンス歴 14 年) 及び小学校教諭 (教員歴 10 年、ダンス指導歴 6 年) の 2 名により、幼児向けである (幼児期の発達段階に適している) と認定した教材 (以下「一般教材」) を採用した。

## (2) 検証項目について

比較する項目については、表 2 に示すとおりである。「速さ」「振付」「流れ」の 3 つのカテゴリーに大分した。「速さ」においては 2 項目 (「BPM」「フレーズ<sup>注2</sup>の拍取り)、「振付」においては 3 項目 (「フレーズ数」・「動きのレベル」・「歌詞)、「流れ」については 2 項目 (「全体の構成」「交流) について検討した。

## (3) ダンス教材発達段階との適合に関する検証方法

本研究では、検証方法として表 2 のそれぞれの項目について、上記 2 名熟練者により発達段階に適しているかを評価している。その上で

表 1 一般教材について

	教材の名称
1	エビカニクス
2	もりもりマッチョ
3	バナナくんたいそう
4	おどろんようび
5	どうぶつたいそう 1・2・3
6	たけのこ体操
7	カボチャチャラントタン
8	げんきげんきマーチ
9	にんじやなんじやもんじや

表 2 ダンス教材の検証項目

カテゴリー	項目
速さ	BPM
	フレーズの拍取り
振付	フレーズ数
	動きのレベル
	歌詞
流れ	全体の構成
	交流

一般的なダンス教材と学生作成ダンス教材についての比較検討を行った。

本研究では、学生の作成した曲が楽曲の 1 番までであったため、全ての教材について前奏から 1 番までを検証の対象としている。評価者は上記の熟練者 2 名である。

各項目の評価方法について以下に記載する。

### ①「速さ」における項目について

速さの項目における「BPM」「拍取り」に関する評価方法は以下の通りである。

「BPM」については、対象のダンス教材の VTR を流した上で熟練者が iOS アプリ BPM において曲に合わせて 10 回タップを行い、その平均値に四捨五入を行い数値検出している。「拍取り」については、フレーズ毎に 1 拍到何回の動きを行っているかを熟練者によって読み取った。

### ②「振付」における項目について

振付の項目における評価方法は以下の通りである。

「フレーズ数」については、楽曲の中の前奏から 1 番終了までのフレーズ数を熟練者により検出した。「動きのレベル」については、レベル 1 については、上半身及び下半身の動きのみもの及び全身で同じ方向性に動くものありかつ容易な動きのもの。レベル 2 については、下半身と上半身と同時に動かすが容易なものもしくは、下半身上半身のみであるが指先など細かい部位まで意識して動かす必要があるもの。レベル 3 については、上半身と下半身を同時に動かす上、幼児が動きを自動化するまでに時間を要すると考えられるものや細かい部位まで意識して動かす必要があるもの。という規準を設けた。「歌詞」については、歌詞に対応する動きと捉えられるものについてピックアップを行った。

上記 3 項目について、熟練者の判断が異なっ



た場合は、2人で繰り返し動画を再生し両者の意見が一致するまで協議を行った。

### ③「流れ」における項目について

流れの項目における評価方法は以下の通りである。

「全体の構成」については、振付の流れや構成に展開や抑揚があるものを熟練者が判断し、その流れを簡潔に記載した。「交流」については、子ども同士が交流したり触れ合ったり共同して行う動きなどがあればそれをピックアップし回数に記載した。

### 4) 学生の記述について

学生の記述については「速さ」「振付」「流れ」の3つについて自由記述を行わせている。なお、本研究では、3年生はグループの意見を集約しグループで1枚の記述シートを作成し、4年生はグループの中の数名がそれぞれ1枚の記述シートを作成している。3年生、4年生両者の自由記述の収集の方法に差異があるため、学生の自由記述については詳細な分析は行わず、考察を補完するものとして使用している。自由記述の全文については巻末に記載してある。

## 3. 結果

### 1) 「速さ」に関する学生教材及び一般教材の比較

「速さ」に関する学生教材及び一般教材の比較結果を以下に示す(表3)。

「BPM」に関して学生教材では、4年生の3歳児グループを除き全てのグループでBPM=158であった。唯一、4年生の3歳児グループはBPM=120に変更し設定していた。一方、一般教材は平均BPM=126.8であり、最もテンポが遅いものはBPM=64、最もテンポが速いものはBPM=187であった。しかしながら、このBPM=64及びBPM=187についてはいずれも1曲中で遅いテンポと速いテンポが交

互に展開されているものである。そのため、単体で最もテンポが遅いものはBPM=115、最もテンポが速いものはBPM=140であった。

続いて「拍取り」に関して学生教材では、3年生は5歳-1グループ以外では、1拍に1回及び2拍に1回であった。5歳-1グループでは、1拍に1回であった。4年生では、3歳児グループのみ2拍に1回、その他のグループでは1拍に1回であった。一方、一般教材では、最もBPMが速いエビカニクスで2拍に1回及び4拍に1回であった。他の教材では、1拍に1回に加えて2拍に1回や4拍・8拍に1回の動きなどで構成されていた。

### 2) 「振付」に関する学生教材及び一般教材の比較

「振付」に関する学生教材及び一般教材の比較結果を以下に示す(表4)。

「フレーズ数」に関して学生教材では、3年生が平均15.33個、4年生が平均15.40個であった。一方、一般教材では平均6.00個であり学生教材の50%以下の数であった。

「動きのレベル」については、学生教材では、レベル1、レベル2、レベル3の出現割合を以下に示す。3年生ではレベル1(29.35%)、レベル2(52.17%)、レベル3(18.48%)であり、4年生はレベル1(40.26%)、レベル2(37.66%)、レベル3(22.08%)であった。一方、一般教材では、レベル1(70.37%)、レベル2(27.78%)、レベル3(3.70%)であった。概観すると、一般教材が最もレベル1が多く、続いて4年生、3年生の順でレベル1が比率が高い。一方、レベル3については、4年生、3年生はほぼ同等の比率であるが、一般教材は3.70%と極めて少ない割合を示した。

### 3) 「流れ」に関する学生教材及び一般教材の比較

「流れ」に関する学生教材及び一般教材の比



較結果を以下に示す（表5）。

「全体の構成」に関して学生教材では、3年生は、ほぼ一定やメロサビはほぼ一定であったのに対して、4年生は、3歳児グループ以外でメロサビや前奏-メロサビの構成を設定していた。他方で、一般教材では、曲のテンポ自体を早い遅いと変えているものもあったものの、一定の流れに終始しているものも存在した。

「交流」に関して学生教材では、カノン<sup>注3</sup>や手を繋ぐなど子ども同士が関わりあう場面が多くのグループでみられた。一方、一般教材では、大半の教材で子ども同士の交流の場面はみられなかった。

#### 4. 考察

##### 1) 「速さ」に関する考察

「速さ」について以下に考察を行う。一般教材では BPM = 126.8、その幅は

BPM=115~140であったことより、学生教材の BPM=158 は幼児にとってはテンポが速い可能性がある。また、一般教材において、BPM = 140 と比較的テンポの速かったエビカニクスについては、2拍に1回、4拍に1回の拍取りで構成されている。上記より、幼児が1拍取りを考えると考えれば、発達段階に適した BPM は 130 までが妥当ではないかと示唆され、それよりもテンポが速くなれば2拍に1回、4・8拍に1回など拍取りを遅くする必要があるといえる。

これを踏まえて、速さにおける学生の発達段階に対する捉えを概観する。学生は、幼児にとって楽曲の BPM=158 は妥当であり、1拍に1回程度の動きであっても3~5歳の幼児は充分に対応できると考えてダンスを作成したと考えられる。ここに、学生の見取りについての不十分さが垣間みえる。つまり、多くの学生は幼

表3 項目「速さ」一般教材と学生教材の比較

一般教材	名称	BPM	拍どり
	エビカニクス	140	2拍1回、4拍1回
	もりもりマッチョ	156(78)	1拍1回、8拍1回
	バナナくんたいそう	138	1拍1回、2拍1回
	おどるんようび	64(187)	2拍1回、4拍1回
	どうぶつたいそう1・2・3	128	1拍1回、2拍1回
	たけのこ体操	125	1拍1回、2拍1回
	カボチャチャランタンタン	115	1拍1回、2拍1回
	げんきげんきマーチ	135	1拍1回、2拍1回
	にんじやなんじやもんじや	129	2拍1回
	平均	126.8	

学生教材	グループ	BPM	拍どり
	3年生 3歳-1	158	1拍1回、2拍1回
	3年生 3歳-2	158	1拍1回、2拍1回
	3年生 4歳-1	158	1拍1回、2拍1回
	3年生 4歳-2	158	1拍1回、2拍1回
	3年生 5歳-1	158	1拍1回
	3年生 5歳-2	158	1拍1回、2拍1回
	4年生 3歳	120	2拍1回
	4年生 4歳	158	1拍1回
	4年生 5歳-1	158	1拍1回
	4年生 5歳-2	158	1拍1回
4年生 5歳-3	158	1拍1回	



表4 項目「振付」一般教材と学生教材の比較

名称	フレーズ数	動き レベル			歌詞
		1	2	3	
エビカニクス	5	3	2	1	エビカニ
もりもりマッコ	9	7	1	1	マッコ
バナナくんたいそう	4	2	2	0	無し
おどろんようび	5	2	3	0	曜日に合わせた動き
どうぶつたいそう1・2・3	6	5	1	0	動物(うさぎなど)
たけのこ体操	7	5	2	0	無し
カボチャチャラントントン	7	5	2	0	かぼちゃ、オバケ
げんきげんきマーチ	7	5	2	0	元気、笑う
にんじやなんじやもんじや	4	4	0	0	手裏剣、はしり
平均(個)	6.00	4.22	1.66	0.22	
割合(%)	100.00	70.37	27.78	3.70	

グループ	フレーズ数	動き レベル			歌詞
		1	2	3	
3年生 3歳-1	11	5	5	1	カラス、腹をすかせて
3年生 3歳-2	14	8	6	0	指、ほほ
3年生 4歳-1	14	5	6	3	腹をすかせて、帰る、見える、ほほ
3年生 4歳-2	17	2	10	5	腹をすかせて、君、思う、見えなく
3年生 5歳-1	20	6	11	3	風、カラス、腹、ほほ
3年生 5歳-2	16	1	10	5	無し
平均(個)	15.33	4.50	8.00	2.83	
割合(%)	100.00	29.35	52.17	18.48	

グループ	フレーズ数	動き レベル			歌詞
		1	2	3	
4年生 3歳	11	9	2	0	ほほ、胸
4年生 4歳	16	10	6	0	腹をすかせて
4年生 5歳-1	13	5	4	4	無し
4年生 5歳-2	18	3	9	6	指、君、距離、ほほ
4年生 5歳-3	19	4	8	7	見上げて、指、ほほ
平均(個)	15.40	6.20	5.80	3.40	
割合(%)	100.00	40.26	37.66	22.08	

表5 項目「全体の構成」一般教材と学生教材の比較

名称	全体の構成		交流
	動き	レベル	
エビカニクス	サビ-メロ-サビ	(サビ前に盛り上がる)	無し
もりもりマッコ	メロ	(テンポ速)-サビ(テンポ遅)	無し
バナナくんたいそう		一定	無し
おどろんようび		テンポ遅い-テンポ速い	無し
どうぶつたいそう1・2・3		ぼぼ一定	無し
たけのこ体操		一定	無し
カボチャチャラントントン		走る場面(テンポ速)-おぼけの場面(テンポ遅)	無し
げんきげんきマーチ		最後にやや盛り上がりあり	無し
にんじやなんじやもんじや		走る、戦うシーンあり	投げるに対応して避ける

グループ	全体の構成		交流
	動き	レベル	
3年生 3歳-1	ぼぼ一定		手を繋ぐ2
3年生 3歳-2	ぼぼ一定		手を繋ぐ2, タッチ(上下)1
3年生 4歳-1	メロ-サビ		ハートのオブジェ1
3年生 4歳-2	前奏-メロサビは一定		手を繋ぐ1, タッチ(両手)1
3年生 5歳-1	前奏-メロ-サビ		縦に2人組1, 向かい合う1, カノン1, 手を繋ぐ1
3年生 5歳-2	前奏-メロサビは一定		繋がって歩く1
4年生 3歳	ぼぼ一定		無し
4年生 4歳	メロ-サビ		無し
4年生 5歳-1	前奏-メロ-サビ		カノン4, 移動2
4年生 5歳-2	前奏-メロ-サビ		カノン1, 移動3, 手を繋ぐ1
4年生 5歳-3	前奏-メロ-サビ		カノン3, 移動2, 手を繋ぐ1, ハイタッチ1



児向きではない速いテンポであっても、曲のテンポを落としたり、拍の取り方をゆっくりにしたりする工夫はせず、学生自身の感覚（大人の感覚）で振付を創っていると考えられる。

しかしながら、4年生の3歳児グループはBPMを120まで落とし、2拍に1回、1拍に1回の動きで構成していた。自由記述には「テンポを遅くして、みんながちやんと踊れるように配慮した。(4年生 3歳グループ)」とある。このグループに関しては、唯一、「速さ」の観点では発達段階の特性を考慮したダンス教材を作成することができたと考えられる。榊原(2010)において<sup>9)</sup>、実習経験が増せば発達過程の理解が深化すると報告されているが、4年生グループの発達段階の適切な捉えは、3年から4年へと実習などの経験を経たことによるものなのか、学生自身の特性・資質（発達段階を捉える視点）が優れているからなのかは本研究では判別できない。いずれにせよ、大半の学生は「速さ」に対して誤った捉えを行いがちであるため、一定の条件を提示（1拍取りであればBPMは110~130程度、BPMが速くなれば拍取りをゆっくりにするなど）することが学生育成の上で重要ではないかと考えられる。

## 2) 「振付」に関する考察

「振付」について以下に考察を行う。「フレーズ数」が一般教材では平均6.00個であったことに対し、学生教材では、3年生は15.33個、4年生では15.40個であった。さらに「動きのレベル」では、一般教材は、最も簡易なレベル1の動きが全体の7割を占めたことに対し、学生教材は4年生では4割、3年生では3割とその割合に大きな差が生じた。一方、最も難易なレベル3においては、一般教材はわずか4%であったことに対し学生教材はいずれも20%前後であった。これらのことより、学生教材は一般教材に比べてフレーズ数も多く、そのレベ

ルもより難易であるといえる。つまり、学生教材は幼児の発達段階に適しておらずレベルの高い教材である可能性が高い。これでは幼児が動きを自動化するまで時間のかかる振りや複雑な動きを習得することに終始してしまうのではないか。前述した亀山ら(2008)の先行研究によると<sup>9)</sup>、幼児のリズムダンス習得過程には導入期、練習期、葛藤期、変化期、発表期の5段階があるとしており、葛藤期を乗り越えることで個人特有の表現が現れ作品に深みが増すとされている。本研究の学生教材では、フレーズ数、フレーズのレベル共に幼児のレベルを超えて逸脱している可能性がある。これでは、亀山のいう導入期・練習期に時間がかかり過ぎてしまい、ダンス特有のリズム・音楽を感じて踊る楽しさに行き着くには時間がかかり過ぎてしまうことが危惧される。学生の自由記述には、「所々、年齢に応じていない。(3年生 4歳-2グループ)」と発達段階に適していないことを自認するような記述がみられたものの、大半は、「年齢にとっても適していたと思う。少しゆっくりのテンポで作ったので、4歳児でも踊れると思う。(3年生 5歳-1グループ)」のように自身作成した教材に概ね満足している記述であった。

上記より、幼児のダンス教材では発達段階にあった動きを適切に配置する必要があると考えられ、学生は振付作成の際に幼児の発達段階を捉えきれているとは言い難い。本研究の一般教材を鑑みると、幼児向け教材における振付では、上半身と下半身を同時に動かすものや細かい部位まで意識して動かす必要があるような難易なレベルのものは全体の数%~10%程度が妥当ではないかと考えられる。また指導の際には、少なくとも一般教材は子どもがすぐに模倣できる動きで70%の動きは構成されていることを学生指導の際に伝えるべきであると考えら



れる。

また、「歌詞」に関する項目については、一般教材、学生教材ともに、幼児がイメージしやすい体の部位や親しみを持ちやすい動物や事柄について、歌詞からインスピレーションを受けてダンス教材を作成していた。自由記述には、「歌詞も振り付けが覚えやすい。(4年生 4歳グループ)」「歌詞に合った(中略)踊りやすかったと思います。(4年生 3歳グループ)」とそれを伺える記述がみられた。著名なダンスの振付などでも歌詞の一部を引用したりインスピレーションを受けて振りが作られていると考えられるものは数多く存在する。歌詞からのインスピレーションの振付を幼児が踊ることのメリットを著者は以下のように考察する。幼児にとってダンス教材は、リズム・音楽を感じて踊る楽しさを感じられるものであるが、歌詞に紐付けた振付を入れることで、イメージをより引き出しダンスの成果に意味世界を見いだすことができると考えられる。堂本(2014)は<sup>10)</sup>、幼児の運動実践の例として「忍者になって多様な動きを経験する」実践を紹介している。この実践は、忍者というイメージに入り込むことでただの運動に意味合いを持たせ、幼児が運動に没頭するきっかけを作っていると考えられる。つまり、歌詞からインスピレーションされた振付を踊ることにより、音と動きだけではなく、その部位を意識したりやイメージを広げることができ、このことでダンス教材への親しみが湧き楽しみが豊かに広がると考える。その点で、本研究の学生教材では歌詞からインスピレーションされた振付を散見することができ、この点で幼児が楽しみやすいように工夫されていた点であるといえる。

### 3) 「流れ」に関する考察

「流れ」について以下に考察を行う。「全体の構成」では、学生教材において3年生と4年

生を比較するとやや4年生の方がダンス教材の作品全体の構成に展開がみられる。また、一般教材は、教材ごとに一定であったり曲調を変えて展開をつけたりなどその展開は様々である。

また、「交流」については、一般教材ではほとんど幼児同士が関わると考えられる場面が見当たらなかったが、学生教材では、「手を繋ぐ」、「タッチ」、「一列につながって歩く」など子ども同士が触れ合う場面がみられた。また、明らかに幼児のレベルを超えたカノンの構成やハートのオブジェを創るなどの例もみられた。

上記の内容をどう捉えるかについては一概に決めることができないと著者は考えている。なぜならば、例えば運動会の演技として作られたダンス教材(作品全体の構成に展開があるもの)を幼児が習得しそれをみんなで踊りきりその結果達成感を得ることがダンス教材での重要事項かもしれない。また、他方では一定の流れリズムを捉えて日常の遊びの一つとして簡単に楽しく踊り続けることがダンス教材での重要事項かもしれない。幼児の日常のどのような場にダンス教材を取り入れるかによって全体の構成への評価は変わるであろう。そのため、幼児向けのダンス教材の全体の流れに関する検討や評価は本研究では難しく今後の課題と考えられる。

内山・阿久津(2014)は<sup>11)</sup>、発達段階は異なるとはいえ大学生を対象とした振付ダンスの楽しみの一つに、「上手くできたとき・完成したとき、達成感を感じたときに笑顔になれる」としており、友達との一体感や完成した時の達成感があると述べている。構成や展開がどの程度であれば幼児が一体感や達成感を感じられる教材になるのか、また、むしろ幼児にとってその体験は重要視されるべきかされないべきなのか実証を通じた検討の余地が残されている。

### 4) 小括





本研究では、学生教材と一般教材を比較することによって学生のダンス教材の捉えや発達段階の捉えなどを把握すること目的とし研究を行った。その結果以下のことが明らかとなった。

①幼児向けダンス教材のBPMは110～130程度が妥当であると考えられるが、学生は幼児にとってのテンポ感覚に乏しく、幼児の発達を考慮できているとはいえない。

②学生が作成するダンス教材は、振付の難度が高くなりがちである上、フレーズ数を多く詰め込みがちである。幼児自身が自動化に時間を要するであろう動きは振付全体の10%未満が望ましいと考えられる。

③学生は、歌詞を捉えそこにインスピレーションを受けて動きを創ることがあり、これは幼児にも効果的であると示唆される。

学生は、幼児の発達段階を捉えられている部分と学生としての自身の身体感覚でダンス教材を作成している部分が混在していたと考えられる。そのため、幼稚園教諭・保育士養成課程で

は表6のような注意点を提示して指導をすることが望ましいのではないかと考えられる。また、本研究の根幹にも関わることであるが、学生がダンス教材をどのような場面で扱う教材として捉え作成しているかが重要なポイントになる。一般教材については、基本的には日々の保育の中で楽しんで踊る教材として作成されていると考えられる。一方、学生のダンス教材は、どのような場面を想定して作成するか本研究では指定していない。学生の中には運動会でのダンス演技として作成したグループもあるかもしれない。日常のダンス教材なのか、演技のためのダンス教材なのか、それにより、全体の構成や流れ、子ども同士の交流の部分はどのように設定すれば良いかわかる可能性がある。本研究の限界性として、この部分に言及せず学生教材を作成させた点がある。幼児にとってより意味のあるダンス教材とするためにも、場面を想定した上での作成が必要であったことをここに記しておく。

表6 幼児向けダンス教材作成のポイント

カテゴリー	内容
速さについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BPMは110～130程度が妥当である</li> <li>・BPM=130を超える場合は2拍以上に1回などゆっくりな拍取りにする</li> </ul>
振付について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児がすぐ真似できる動きを多くする(一般的な教材は70%程度が簡単な動きである)</li> <li>・自動化に時間を要する難しい動きは10%未満にする</li> <li>・歌詞などに関連付けた振りを取り入れる</li> </ul>

## 5. まとめ

本研究において、学生のダンス教材自体に対する捉えや幼児の発達段階に対する理解や捉えの曖昧さが垣間見えた。これは、学生の資質によるものというよりも幼稚園教諭・保育士養成を行う大学側、さらにはダンス教育を研究する研究者に原因があると考えられる。

まず、ダンス教育の研究者は、幼児の発達段階を捉えたダンス教材のあり方や創り方をより

明確にわかりやすい形で打ち出さないといけない。少なくとも養成課程の学生がダンス教材を創る上で、発達段階を捉えきれていないと考えられる現状は、即ち、幼児教育・保育現場で幼児にダンスの魅力が伝わりきらない可能性があることを自認すべきである。また、大学で講義を行う教員は、学生が発達段階を捉えてダンス教材を創ることができるよう、ポイントを押さえた情報を提供した上での指導が望ましいこと



を理解しなければならない。

いずれにせよ、幼児期のダンスや身体表現、ダンス教材のあり方を充実させていくためにも、この分野に関するさらなる研究や実践研究が期待される。

注1) 本研究取り上げた幼児向けダンス教材には、「〇〇体操」と、名称に体操が入っているものがある。しかしながら、リズムに合わせて幼児が身体表現を行うことができる教材であれば本研究ではダンス教材と位置付けることとしている。

注2) 本研究において、フレーズとはひとつながりの動きを意味している。

注3) カノンは、ダンスの舞台でよく使用される構成の1種であり、1～数カウントずつ動きをずらして同じ振付をなどを踊る構成のことを示す。

#### <引用・参考文献>

- 1) 川端悠「幼児向け運動あそび用教材『ダンスとてあそび』の開発」八戸学院短期大学研究紀要 42,2016,pp21-26
- 2) 松岡綾葉「エアロビックダンスのステップ用いた幼児のリズムダンス創作の検討」こども教育宝仙大学 紀要 9(1),2017,pp39-47
- 3) 高木香代子・平下政美「幼児用リズムダンスに関する研究」金沢学院大学紀要「経営・経済・情報科学・自然科学編」14,2016,pp111-119
- 4) 亀山有希「幼児教育におけるダンス・表現活動の導入に関する研究」日本体育大学紀要 37,2,2008,pp97-106
- 5) 田村知栄子「幼児のヒップホップダンス実践に関する検討」越谷保育専門学校研究紀要 5,2016,pp7-14

- 6) 長野真弓・椿ちか子「幼児におけるダンス動作の体得に関わる要因の探索」臨床心理学部研究報告 3,2011,pp79-89
- 7) 増田未来・松岡綾葉「幼児の身体表現における外部講師の役割」淑徳大学短期大学部研究紀要 56,2017,pp165-179
- 8) 小笠原大輔「保育者養成における身体表現教材『おもしろダンス』に関する実践報告」湘北紀要 36,2015,pp25-38
- 9) 榎原博美「保育所保育指針の発達過程理解に関する調査からの考察」名古屋柳城短期大学研究紀要 32,2010,pp181-186
- 10) 堂本真実子『幼児期における運動発達と運動遊びの指導 遊びのなかで子どもは育つ』-第8章1節忍者になって多様な動きを経験する- ミネルヴァ書房 2014,pp106-118
- 11) 内山須美子・阿久津隼佑「ダンス学習の楽しさに関するテキストマイニングによる分析」白鷗大学教育学部論集 8(1),2014,pp89-114

#### <参考 URL >

- 1) エビカニクス  
<https://www.youtube.com/watch?v=U9nmGLZUGR4>
- 2) もりもりマッコ  
<https://www.youtube.com/watch?v=fZrRRDvX4K8>
- 3) バナナくんたいそう  
<https://www.youtube.com/watch?v=ixqUnzfrSbc&list=PLhUtTw15PC1rs4oL3lqD3KWD8cJqbe78A>
- 4) おどるんようび  
<https://www.youtube.com/watch?v=26GV89yoSb8>
- 5) どうぶつたいそう 1・2・3



- [https://www.youtube.com/watch?v=XcL0o\\_l\\_ETw](https://www.youtube.com/watch?v=XcL0o_l_ETw)
- 6) たけのこ体操 <https://www.youtube.com/watch?v=LmJGAdv-mKg>
- 7) カボチャチャラントタン <https://www.youtube.com/watch?v=htJChjbArCs>
- 8) げんきげんきマーチ <https://www.youtube.com/watch?v=LtziQJbllVQ>
- 9) にんじゃなんじゃもんじゃ <https://www.youtube.com/watch?v=Qv2-zd7jkoo>

A study of capturing dance material by students who are in Kindergarten and Nursery teacher training.

: Focusing on the creating dance material for each child development level.

Yasufumi TAKATA, Rie YUASA, Akiko GOHARA

This research focuses on the dance material that is made by students who are in Kindergarten and Nursery teacher training. This research's purpose is to get the basic data that helps to improve the class about physical expression from analyzing and examining "the dance material for each child development level" which is made by students in class.

It is the result in this research. 1: It is appropriate that the dance material's BPM for young children is about 110 ~ 130. It is clear that students don't understand the rhythmical feeling for young children. 2: It is too many amounts of phrases and too difficult about the dance compositions in the dance material that is made by students. The move which young children take long time to get automation of action is better to set less than 10% in the whole dance compositions. 3: Students tend to create movements from the inspiration by lyrics. It can say that this is very useful for young children.

Key words: Kindergarten and Nursery teacher training, each child development level, dance material, physical expression, for children



## 巻末資料 1 3年生 自由記述

### 【速さについて】

#### 3歳1グループ

- ・曲の速さが速かったので、拍を調節した。
- ・何回も同じ所を繰り返すとはできるが、途中身ぶり手ぶりが速いところがあったので3歳児には少ししんどいかなと感じた。

#### 3歳2グループ

- ・ちょっと動きが速かった。

#### 4歳1グループ

- ・動きの種類を少しつめこみすぎたので少し忙しいと思った。

#### 4歳2グループ

- ・速かった。
- ・サビの部分は動きをゆっくりにしたから応じていた。
- ・サビの部分は一部を除いては遅くする必要があった。
- ・拍を1, 2拍遅くする必要があった。

#### 5歳1グループ

- ・曲のテンポにダンスを合わせず0.5倍にすることで子どもたちも動きやすい速さで作ることができた。
- ・曲の速さは調整する必要は十分にあったと思う。テンポ通りにダンスの振り付けを作っていたら速すぎてついていけないと思う。

#### 5歳2グループ

- ・動きを覚えるまでは、もう少し曲の速さをゆっくりにしたら、子どもたちも覚えやすいと思う。

### 【振付について】

#### 3歳1グループ

- ・実際に3歳児とやっていないので年齢に応じていたかわからない。
- ・跳んだり手を繋いだりなど、子どもが好きそうな振付だったと思う。

#### 3歳2グループ

- ・年齢にあった振付を考えることができた。
- ・選曲ミス

#### 4歳1グループ

- ・他の所で踊りづらくても、ハートにするとところやハイタッチはできるから、子どもも見ている方も楽しめそう。
- ・ボックスステップは4歳児には難しかった。

#### 4歳2グループ

- ・所々、年齢に応じていない。
- ・手を合わせるなど、子どもが楽しむことができる動きがあり、喜ぶと思う。



### 5歳1グループ

- ・年齢にとっても適していたと思う。少しゆっくりのテンポで作ったので、4歳児でも踊れると思う。
- ・もともとの振付を少し簡単にして作ったので、テレビで見るような振付と似ていて、踊っていてとても楽しめると思う。

### 5歳2グループ

- ・ジャンプなど取り入れていたので、喜ぶと思う。貨物列車をすることで、仲間と協力する楽しさを知ることができたと思う。

### 【流れについて】

#### 3歳1グループ

- ・同じ振付を何回か繰り返すところがあり流れはよかったと思います。
- ・一番最後にあるグルグルをし、ジャンプをする部分がポイントです。

#### 3歳2グループ

- ・流れ良い。位置OK

#### 4歳1グループ

- ・ハートとハイタッチなど子どもがやる気を持って取り組むことができる振付を考えることができた。

#### 4歳2グループ

- ・流れ的にはよかった。
- ・ダンシングヒーロー&井森美幸と最後のハイタッチが盛り上がる部分。

#### 5歳1グループ

- ・歌詞にあった振付を作ってみたので、とても流れにそったダンスになったと思う。とても踊りやすいと思う。サビ前にペアになって踊るので、踊っていてもみていても盛り上がる仕上がりになったと思う。

#### 5歳2グループ

- ・踊りの中につながりがあったのでよかったと思う。泳ぐ動作が子どもたちの想像しやすい動きなのでポイントです。

## 巻末資料2 4年生 自由記述

### 【速さについて】

#### 3歳グループ

- ・3歳でも楽しく踊れるように、テンポを遅くしたので、ちょうどいい速さになったのではないかなと思う。
- ・テンポを遅くして、みんながちゃんと踊れるように配慮した。

#### 4歳グループ



- ・もう少し、ゆっくりテンポにすればよかった。
- ・少し速かったかもしれないと感じた。もう少し、曲のスピードをゆっくりしたら良いと感じた。

#### 5歳1グループ

- ・5歳児なので片足立ちはもちろん体を思うように動かせる年齢なので動きは遅くしませんでした。
- ・5歳児なので単純すぎない動きを意識しました。曲のテンポが速いので、速すぎず遅すぎないようにしました。
- ・年齢に応じて対応するのがとても難しかったです。具体的にやはり、5歳に合わせるのは難しくどこまでできるのかが考えられています。

#### 5歳2グループ

- ・5歳には速さに合わせられる対応力はあると思うので、ちょうどいいと思った。
- ・曲の速さは通常でも大丈夫だと思います。踊りも少し速かったけど、5歳児さんにはあっていると思いました。
- ・5歳なので原曲の速さで踊れると思う。
- ・5歳が動きやすい速さだと考えた。

#### 5歳3グループ

- ・曲は少し早めの曲だったため、繰り返しの動きを取り入れることで速さに慣れることができるようにした。
- ・5歳児なので速さはあまり遅くせずに簡単にテンポよく踊れる振付ができたと思う。
- ・全体的に踊りやすいテンポだったと思う。
- ・少し練習が必要だと感じたが、十分子どもができる速さだったと思う。曲の速さは原曲通りで良いと思う。
- ・5歳児で最年長でありましたが、あまり速すぎず遅すぎずならないように、体も覚えやすいカウントでダンスを考えていきました。

### 【振付について】

#### 3歳グループ

- ・できるだけ簡単な動きを沢山取り入れた。繰り返す部分を入れることで覚える負担を減らした。
- ・歌詞に合った動きとテンポを遅くしたことによって、ゆっくりとした振付ができて踊りやすかったと思います。

#### 4歳グループ

- ・おしりを振ったり、ハートを作ったりして子どもが楽しくできる振付にした。歌詞も振り付けが覚えやすい。
- ・くるくる（いーとまきまき？）など子どもが好きな動きを入れることができた。

#### 5歳1グループ

- ・はじめに好きなポーズをすることによって覚えやすいし、動きやすい振付にしました。
- ・その場でダンスだけでなく移動を少し多めに入れたりして、簡単すぎないようにしました。おしりフリフリする振付は子どもも喜んでくれるかなと思いました。



・子どもみんなが合わせていて、みんなの動きが合わさっているところや一人一人のポーズをとることで、自分の個性が出ると思い、やる気も出ます。

#### 5歳2グループ

- ・手をつなぐところやキラキラする、おしりをふるなど子どもたちは喜んでくれると思った。
- ・隣の人と手をつなぐ振り付けがあったり、おしりをフリフリする振り付けがあったりしたので、子どもたちも喜ぶのではないかと思いました。
- ・ステップをしたり、おしりを振ったり、子供の喜ぶ振付だと思う。
- ・むずかしすぎずちょうどいいと思った。

#### 5歳3グループ

- ・時間差で立ち上がる場所や自分なりのポーズをするところなど少し難しいことにチャレンジできる場合を作った。両手をあげて細かく降るところは、子どもが楽しく踊ることができるのではないかと思った。
- ・子どもたちが楽しく喜んでできるように、見た目も可愛く楽しんでできるような動きを取り入れた。簡単すぎず、ペアでの動きを取り入れてできるようにした。
- ・手を上下に動かしたり、カラスを表現するように両手を広げたりするところやペアで手をタッチするところなど、踊っていて自分たちも楽しかったので、子どもも喜んでくれると思います。
- ・ステップやターン、タッチを振付に取り入れたので、子どもは十分楽しめると感じた。順番に立つところと座るところがあったので、そこに関しては事前確認が必要だと感じた。
- ・身近に感じるように歌詞に合わせてながら振り付けを考えました。ボンボンを使ったので、ボンボンを目立つようにボンボンをふりながら楽しく踊れるようにしました。

### 【流れについて】

#### 3歳グループ

- ・盛り上がるポイントがなかったと思うので、サビの部分でもっとインパクトがある振り付けをしてもよかったかな？と思った。
- ・みんなが知っている曲ということもあり、サビの部分は盛り上がるポイントだと思います。

#### 4歳グループ

- ・もっと子どもが盛り上がる振り付けや流れにすればよかった。隊形変化など。
- ・サビがもう少し盛り上がるようにできたらよかったと思う。

#### 5歳1グループ

- ・はじめに自分がしたいポーズを決めるのでそこがポイントになると思いました。
- ・ニワトリみたいな動きで移動する場所や一人一人好きなポーズをする部分は子どもたちも盛り上がって楽しんでくれるのではと思いました。
- ・ココの動きが子どもはやはりテンションが上がるので、やはり流れに乗る曲なので、よかったです。

#### 5歳2グループ

- ・踊りやすく、ジャンプしたりする部分が盛り上がりました。



- ・歌詞に合わせた振り付けなので踊りやすい流れになったと思います。盛り上がる部分はあまりなかったかなと思います。
- ・おしりを振った後、振り向いて手を振ることで見ている人にアピールすることができる。
- ・踊りやすかった。

#### 5歳3グループ

- ・繰り返しの動きを数カ所取り入れたため覚えやすく踊りやすい流れになったと感じる。またサビだけペアになったり最後の間奏で激しい動きをしたりするなど盛り上がる部分を大切にした。
- ・歌に合わせて振り付けをする部分や曲の流れに合わせてサビに向け盛り上げたり、サビの部分はペアで動いたり、最後はポーズをとって終わるなど工夫した。
- ・動きも繰り返す部分があって良い流れで構成できたのではないかと思います。両親も自分の子どもがジャンプしたところなどしっかり見てもらえる部分があったと思います。
- ・Aメロの時点で手を動かしながら右にステップする振り付けにしていたので導入から盛り上がると思った。間奏に当たるところは手をシャカシャカ上下に揺らすので楽しめると思った。
- ・あまり覚える振り付けが多くならないように同じ振付にして繰り返したりしました。サビではペアになりお友だちと手を繋いで踊るなど、見ていても盛り上がると思いました。